

第二章活用事例

「日本人の心の歌を求めて」―滝廉太郎―

中学校版

「心みつめて」 p.56～p.63

【主題名】 優れた伝統の継承と新しい文化の創造

4-9 「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めることにも」、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。」

【ねらい】 日本の音楽の歴史と文化に触れ、優れた伝統文化の継承と新しい文化の創造に貢献しようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》中学生の時期は、日本の国土や歴史に対する理解が深まり、伝統と文化に対しても一層関心をもつようになりま。日本の優れた伝統と文化について理解を深め、また、その継承と創造に貢献した先人の生き方に触れさせることで、自らも優れた伝統の継承と新しい文化の創造に主体的に貢献していこうとする心情を育むことが大切です。

導入



「滝廉太郎という人について、どのようなことを知っていますか。」

○『心みつめて』p.44～p.45 「東京のアルバム」を活用し、「春の隅田川」の桜の写真と「花」の歌詞を確認し、曲のイメージをもたせる。

○教師が「日本人の心の歌を求めて―滝廉太郎―」を範読する。



「留学を延期している間、廉太郎はどのような思いで作曲していたのだろうか。」

○日本人の心の歌を自分が作るのだという廉太郎の強い決意に着目させるとともに、廉太郎が、故郷の風景や幼い頃の思い出を曲に乗せながら、新しい日本の音楽文化を創造していったことへの理解を深めさせる。

中心発問



「ドイツの学校や音楽家たちの集まりで作品を披露し、絶賛された時、廉太郎はどのような気持ちだったのだろうか。」

展開

○日本の音楽を西洋に受け入れられた廉太郎の気持ちに共感させる。

○廉太郎の才能が認められた喜びや、日本独自の音楽を作ったという達成感だけでなく、歌が絶賛されたことの背景に日本文化のすばらしさがあることに気付かせ、ねらいとする道徳的価値への理解を深めさせる。

《評価》

廉太郎の心情に共感するとともに、優れた伝統を受け継いだり新しい文化を創造したりする生き方のすばらしさに気づき、そのような生き方をしていきたいという心情をもつことができたか。



「様々な日本の伝統や文化の中で、あなたが伝えていきたいと思うものは何だろうか。また、それはなぜだろうか。」

○『心みつめて』第三章 p.164～p.165 「我が国を愛し、その発展に努める」を活用し、掲載されている写真を参考に、優れた日本の文化や伝統について考えさせる。
○日本の文化や伝統を伝えていきたい理由を考えさせることで、日本のよさを見つめ直させるとともに、継承者・創造者としての自覚をもたせるようにする。



「廉太郎の代表的な作品である『花』を聴きましよう。」

終末

○音楽科の学習との関係から、廉太郎の他の作品『荒城の月』『箱根八里』などを聴かせてもよい。
○音楽を聴きながら、授業で感じたことについて書かせる。

板書例

日本人の心の歌を求めて―滝廉太郎―

隅田川の桜の写真

滝廉太郎
・作曲家。
・「花」「荒城の月」などを作曲。

留学を延期している間、廉太郎はどのような思いで作曲していたのだろうか。

○ドイツの人たちの前で胸を張って演奏できる日本の曲を作りたい。
○日本の風景や日本人の思いを曲に乗せて、日本人の心の歌を作るのだ。

ドイツの学校や音楽科たちの集まりで作品を披露し、絶賛された時、廉太郎はどのような気持ちだったのだろうか。

○日本人が作詞し、日本人が作曲した音楽が、ドイツの人々に認められてうれしい。
○日本の情景や日本人の心を、音楽を通してドイツの人々に伝えることができ満足だ。達成感。
○自分は日本人の心の歌を作り上げることができたのだという幸福感。誇らしさ。

様々な日本の伝統や文化の中で、あなたが伝えていきたいと思うものは何だろうか。また、それはなぜだろうか。

○浮世絵

日本らしさや日本人の感覚が込められているから。海外でも高く評価されているから。

○茶道

礼儀や作法、道具や動作の美しさなど、和の精神がたくさん詰まっているから。

○新幹線・リニアモーターカー

安全性や車両の性能などの先進技術は、日本が世界に誇れるものだから。

○マンガ・アニメ

作画やストーリー性など、海外でも人気があり日本文化の代表の一つになっているから。

〈授業の感想〉

○今の日本の宝を後世に伝え、残していくことは大切だと思った。
○古き良き日本文化を大切にするとともに、さらによりよいものにして次の世代につなげていきたい。

《評価》

日本の音楽の歴史と文化に触れ、優れた伝統文化の継承と新しい文化の創造に貢献しようとする心情を育てることができたか。